



今季号の 注目記事

小石川東京病院での診療が再開し、1年が経過いたしました。この1年の振り返りと晴和病院の解体工事についてお知らせいたします。また、7月は夏の土用の丑の日があります！うなぎ特集を裏面に掲載しておりますのでご一読ください。

1年の振り返りと今後について

診療再開から無事に1年を迎えました！

小石川東京病院は築65年の病院です。日本通運の職域病院としてスタートし、その後、医療法人社団大坪会が111床の病院として引継ぎ、大塚周辺地域を含め近隣の皆さんにご利用いただいていた。約5年間のお休み期間を経て、昨年6月に診療再開しました。公益財団法人神経研究所晴和病院のスタッフが出向して運営にあたっています。

コロナウイルスのワクチン接種に来られた方が「以前眼科の腕のいい先生に診てもらっていたのよ。」と懐かしそうに言っておられました。これからも地域の皆さんのお役に立つようスタッフ一同心して取り組んでまいりますので、これまで以上ご支援賜りたいと存じます。

標榜診療科は精神科、心療内科、専門外来として発達障害、睡眠障害を中心にメンタルヘルスケア全般を扱っています。訪問診療やひきこもりへの取り組みもスタートしています。外来はコロナ禍の中ではありますが今まで以上の多くの患者さんに通院していただいています。コロナに起因する精神障害が増えている新聞記事を目にしました。今後しばらくメンタルヘルスケアのニーズが高まるでしょう。皆様の心の「健康」に貢献できるよう努めてまいります。



建築も高齢化し、サポート・ケアが必要です。

もともと、日本通運が建てた病院だけあって、骨格・骨組みはしっかりしています。しかしながら、設備は老朽化しているので、こまめな手入れが必要です。配管からの水漏れ対策、汚水槽の洗浄、エアコンのフィルター洗浄など「転ばぬ先の杖」で具体的に取り組んでいます。人と同じで建物へも愛情をもって保守メンテナンスする必要があります。それに応え、「高齢者」の年を超えても現役で頑張ってくれるでしょう。ガンバレ小石川東京病院！



晴和病院、解体工事に着手しました。

5月31日、弁天町の晴和病院建替え計画第一弾として、解体工事がスタートしました。今年で公益財団法人神経研究所は70年の節目を迎えます。近隣の住宅やマンションの皆様への工事の説明の後、7か月間の工事期間を経て来年1月31日工事完了を目指します。6月1日、神楽坂にある赤城神社の宮司さんにおいでいただき、現場の職人さんとともに安全祈願しました(右記写真)。解体工事完了後、埋蔵文化財の調査を予定しています。敷地の弁天町91は江戸時代七軒寺町と呼ばれ、千手院というお寺がありました。それに由来する遺物が出る可能性があります。その後いよいよ、2025年新春竣工予定の新病院を含む新神経研究所の建設に着手します。



コロナ禍の中ですが、禍(わざわい)転じて福となす！スタッフ全員全力で取り組んでまいりますので、ご支援よろしくお願ひします。

文責：企画室 南部谷真

2021年7月以降の医師の診療体制

		月	火	水	木	金	土(第1・3)
午前	初診	小林(一般精神) 宮岡(発達) 丹治(発達)	貫井(一般精神) 眞下(一般精神) 松村(発達) 伊東(睡眠)	飯田(一般精神) 村木(一般精神) 伊東(睡眠) 丹治(発達)	小田(一般精神) 丹治(発達) 鈴木	木下(一般精神) 和田(睡眠)	本多(睡眠) 太田(発達)
	再診	小田 眞下	貫井 丹治 小林 木下 鈴木	山田 加藤 飯田	伊東 村木	小林 和田 村木 山田	小田 丹治 伊東 太田 山田 山本 本多
午後	初診	なし	なし	加藤(発達)	大森(睡眠) 上野(睡眠)	和田(睡眠)	本多(睡眠) 太田(発達)
	再診	小田 宮岡 小林 眞下 山田(第4週のみ)	丹治 松村 加藤 眞下 伊東 鈴木	伊東 村木 山田 滝本	小田 丹治 鈴木 村木 大森 上野	本多 和田 木下 村木 山田	伊東 山本 太田 本多 武田(第1週のみ)

小石川東京病院周辺 MAP～お店紹介 特別編2～

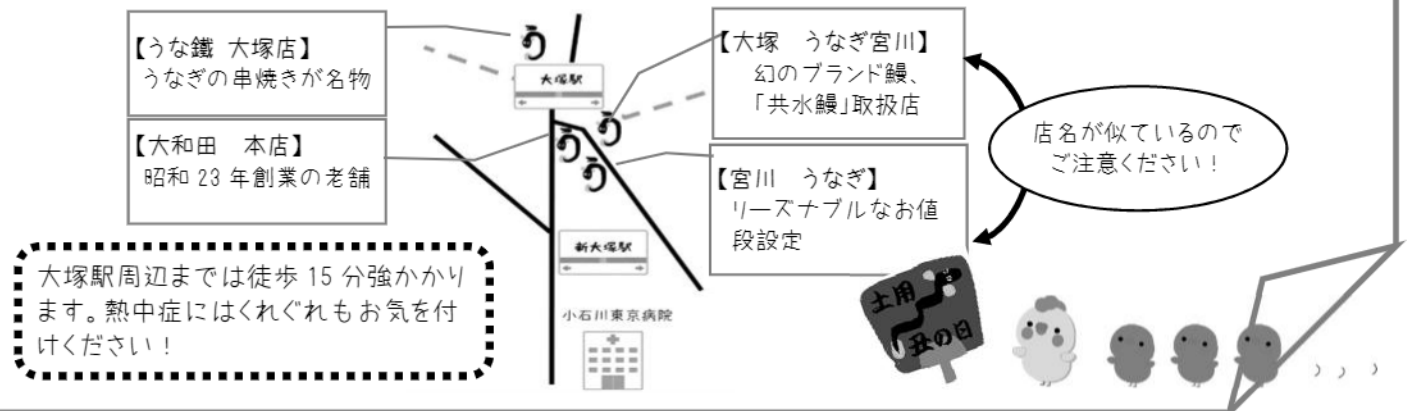
「土用の丑の日」 2021年は7月28日！！

「土用」とは立夏、立秋、立冬、立春直前の約18日間の期間を指します。また、昔の暦では日にちを「1、2、3…」ではなく「子、丑、寅…」と十二支で数えていました。このため、「土用の丑の日」とは、土用の期間に訪れる丑の日のことを指します。年四回ある「土用」ですが、立秋前の「夏の土用」だけがよく知られるようになったのは、「丑の日」に“うなぎ”を食べる習慣があるからだと考えられています。

では、なぜ「土用の丑の日」に“うなぎ”を食べるようになったのでしょうか。起源には諸説ありますが、最も有名なのは江戸時代の蘭学者平賀源内が考案したという説です。今でこそ栄養面の高さから夏に人気のある“うなぎ”は、当時は味の濃さからあまり売れませんでした。売上の落ち込みに悩んでいたうなぎ屋の主人のために、平賀源内が「本日、土用の丑の日」と書いて店頭に掲げ出したところ大繁盛！それを他のうなぎ屋が真似ていき、現在の習慣が出来上がったとされています。

うなぎを食べることでの夏バテ予防の効果については、実は古くから知られてはいました。なんと、日本最古の和歌集「万葉集」にそのことを詠っている和歌があります。この夏は、ぜひ“うなぎ”を食べて暑さを乗り切りませんか？

”石麻呂(いはまろ)に われ物申す 夏瘦に良しといふ物ぞ 鰻取り食せ“ 大友家持 文責:企画室 反町絵美



医事課からのお知らせ

【コロナ関連】

- ・院内での感染防止のため、入り口での検温と手指消毒にご協力ください。
- ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に伴い、自立支援医療の手続きに関してお知らせいたします。期限により手続きが異なりますので、ご注意ください。
 - ①令和2年3月1日～令和3年2月28日の期間中に期限満了する方
自立支援医療(精神通院医療)受給者証の有効期限が所得区分等、現在の支給認定状況のまま一年延長になります。
 - ②有効期限が令和3年3月以降の方
延長の措置はなく申請が必要となります。お近くの保健センターまたは市町村の障害福祉課にお問い合わせください。
- ・新規申請、登録変更や手帳の申請を希望される方は従前どおりお手続きが必要となりますので、お近くの保健センター又は市区町村の障害福祉課へお問い合わせをお願いいたします。

【駐車場】

- ・駐車可能なコインパーキングは5台のみとなります。恐れ入りますが、なるべく公共交通機関でのご来院をお願いいたします。